

# フロンティア秋田通信 2022

[新春号] SPRING

## 一般質問に初登壇 文化振興について提言

記者出身らしく、取材を基に他都市との比較データも令和3年4月の秋田市議会議員補欠選挙で当選した山崎宗雄議員が11月定例会で一般質問に立ち、秋田市の街づくり、工芸の振興、図書館の整備、多目的小規模ホールの必要性などについて、取材に基づいたデータを駆使して執行部を質しました。



初めての一般質問に立つフロンティア秋田の山崎議員。



一問一答の再質問では、さらに厳しく当局に迫りました。

**山崎** フロンティア秋田の山崎宗雄です。4月の秋田市議会議員補欠選挙において、6万1329票という多くの方々からご支持をいただき、議席を得ることができました。あれからおおよそ7ヶ月、こうして初めて一般質問に立つ機会を与えていただいた会派の同僚議員の皆さん、そしてさまざま助言、

指導をいただいた関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。

### 人が住んでこそその「街」

**山崎** ①これまで一貫して秋田市が目指すコンパクトシティと相入れないとして否定してきた民間事業者による

外旭川地区のまちづくりについて、外旭川地区まちづくり事業パートナーを募集するという形で容認する方向に転換したが、立地適正化計画における都市機能誘導区域外に新たな集客施設を建設することにより、同計画と矛盾が生じるのではないかと。②現卸売市場敷地及びその周辺をまちづくりのモ

デル地区としているが、人が住むことを想定していない「まち」が、将来に向けたまちづくりのモデル地区になり得るのか。

かかわらず、あきた芸術劇場の整備に伴い、県民会館を閉館し市文化会館を用途廃止することにより、ホール数や客席数を減らすことは、その趣旨に反するのではないかと。②市民が自主的な芸術文化活動に親しむことができる環境を作っていくために、中心市街地に小規模な多目的ホールを新たに建設することを検討すべきではないかと。

せてはどうか。市長 赤れんが郷土館では銀線細工や漆工芸品などを紹介する常設展や、秋田市美術工芸協会をはじめとした関係団体との連携企画展などの展示を行っており、引き続き常設展の充実などに取り組みしていく。

### 不登校児へのサポート

市長 文化会館の用途廃止は、文化会館、県民会館の機能を継承する「あきた芸術劇場」整備と一体のものであり、芸術劇場により将来にわたって市民が優れた文化施設を活用できる環境を整えられることは、総合計画でめざす理念と合致するものと考えている。また、新たな施設整備の検討については、これまで整備してきた施設における芸術文化活動やニーズを見極める必要があるものと考えている。

**山崎** 市内にはNPO法人等が運営するフリースクールが複数あるが、あるフリースクールでは、利用者の多くが片親世帯で、経済的に余裕のない家庭が多く、一日5000円の利用料が負担になっていくとのことだった。生活に困窮している家庭の児童生徒が不登校になった場合フリースクールを利用する際の費用補助を行う考えはないか。

教育長 図書館は、市民の教育と文化の発展に資するため、読書や学習に必要な資料や情報を整備し、学習環境を提供する社会教育施設であり、同時に講座やおはなし会など各種事業への参加も含め、年間50万人程の市民が来館する施設でもある。現時点において、市長部局への移管は検討していないが、中央図書館明徳館が芸術文化ゾーン内にあるという立地を踏まえ、各施設とのさまざまな連携に取り組んでいるところであり、今後も、図書館と周辺施設それぞれの利用者数の増加に相乗効果が生まれるよう、さらなる連携に努めていく。

### 図書館で賑わい創出

**山崎** 図書館は、子供から高齢者まで幅広い世代の市民が利用し、賑わい創出にも大きく貢献できる施設であり、たとえば中央図書館明徳館は隣接する秋田市文化創造館とも連携した活用策を講じることも可能であることから、観光文化スポーツ部など市長部局への移管を検討すべきではないか。

### 小ホールの代替必要

**山崎** ①第14次秋田市総合都市計画基本構想の将来都市像「人と文化はぐくむ誇れるまち」において「市民が自主的な芸術文化活動に親しむことのできる環境づくりを進める」としているにも

市長 文化会館の用途廃止は、文化会館、県民会館の機能を継承する「あきた芸術劇場」整備と一体のものであり、芸術劇場により将来にわたって市民が優れた文化施設を活用できる環境を整えられることは、総合計画でめざす理念と合致するものと考えている。また、新たな施設整備の検討については、これまで整備してきた施設における芸術文化活動やニーズを見極める必要があるものと考えている。

### 工芸の振興

**山崎** 令和4年度に伝統的工芸品月間国民会議全国大会(工芸エキスポ)が本市で開催され、全国から工芸品に関心のある多数の来場者が訪れることから、人間国宝の工芸作家である関谷四郎の記念室がある秋田市赤れんが郷土館に、本市の工芸品に係る常設展示を充実さ

市長 赤れんが郷土館では銀線細工や漆工芸品などを紹介する常設展や、秋田市美術工芸協会をはじめとした関係団体との連携企画展などの展示を行っており、引き続き常設展の充実などに取り組みしていく。

**山崎** 市内にはNPO法人等が運営するフリースクールが複数あるが、あるフリースクールでは、利用者の多くが片親世帯で、経済的に余裕のない家庭が多く、一日5000円の利用料が負担になっていくとのことだった。生活に困窮している家庭の児童生徒が不登校になった場合フリースクールを利用する際の費用補助を行う考えはないか。

教育長 図書館は、市民の教育と文化の発展に資するため、読書や学習に必要な資料や情報を整備し、学習環境を提供する社会教育施設であり、同時に講座やおはなし会など各種事業への参加も含め、年間50万人程の市民が来館する施設でもある。現時点において、市長部局への移管は検討していないが、中央図書館明徳館が芸術文化ゾーン内にあるという立地を踏まえ、各施設とのさまざまな連携に取り組んでいるところであり、今後も、図書館と周辺施設それぞれの利用者数の増加に相乗効果が生まれるよう、さらなる連携に努めていく。



# フロンティア秋田が第2会派 山崎議員は教育産業委員会に所属

フロンティア秋田は、補欠選挙で当選した山崎宗雄議員が加わったことで、構成員が6人になり、秋水会(15人)に次ぐ第2会派になりました。

会長の倉田芳浩議員(当選4回)、議長経験者のベテラン小林一夫議員(当選6回)、幹事長の藤田信議員(当選2回)、議会運営委員の船木純議員(当選1回)、副幹事長の後藤良議員(当選1回)に、新人の山崎宗雄議員を加えた6人です。

現在の秋田市政に対しては是非々々の立場で、考えの分かれる案件に関しては自由に意見を述べ合ひ、会派拘束をせずに議員個々の考えを尊重しています。

秋田市議会の会派構成は秋水会(15人)、フロンティア秋田(6人)、市民クラブ(5人)、公明党秋田市議会(4人)、共産党秋田市議会議員団(4人)、 সেই(2人)となりました。各委員会は、倉田議員が厚生委員会、小林議員

と後藤議員が建設委員会、船木議員が総務委員会、藤田議員と山崎議員が教育産業委員会の所属



山崎宗雄議員の議席番号は3番下。どの議員が登庁しているかは電光掲示板で確認できます(右)。



になりました。藤田議員は教育産業委員会委員長、船木議員が予算決算委員会副委員長に就任しました。

回大会に参加しました。秋田市の自殺者を減らために議員として何ができるのかを、県民運動の方々と共に考え、行動していきたいと思っています。

また、「文化芸術の振興を考える議員の会」では、新しくできた市文化創造館を視察し、藤浩志館長(秋田公立美術大学教授)の講演を聴講したり、観光文化スポーツ部の職員の方々と文化振興ビジョンについて意見交換するなど、文化行政への理解を深める活動をしています。

## 各議連の活動も活発に 「文化芸術の振興を考える議員の会」も発足

市議会には委員会のほか、議員が会派を超えて組織するさまざまな議員連盟(任意団体)があります。農林議員の会、商工議員の会、防衛議員連盟、スポーツ振興議員連盟など20を超える団体が活動しています。



市文化創造館を視察する「文化芸術の振興を考える議員の会」上。自殺対策を考える秋田ふきのとう県民運動大会(右)。

## 秋田市の2022年度の主な事業

- ▶ 市立秋田総合病院の運営負担金や改築費 **15億4,960万円**
- ▶ 千秋美術館の大規模改修 **7億1,746万円**
- ▶ 新佐竹史料館の設計や現施設の解体 **2億8,534万円**
- ▶ プレミアム付き商品券の発行 **2億8,525万円**
- ▶ 千秋公園にお堀の遊歩道などを整備 **1億9,520万円**
- ▶ 東北絆まつり開催経費 **1億9,024万円**
- ▶ 市内への移住促進 **1億240万円**
- ▶ 農業ブランド確立事業 **8,564万円**
- ▶ 不妊治療費助成 **5,998万円**
- ▶ 稲作農家への種苗費補助 **5,392万円**
- ▶ アフターコロナに向けた事業者の業態転換支援 **2,000万円**
- ▶ 観光素材をまとめたウェブサイト制作 **898万円**
- ▶ 誘致企業のオフィス確保支援 **192万円**
- ▶ 粗大ごみ収集申し込みのオンライン化 **126万円**
- ▶ 性的少数者のパートナーシップ制度導入 **112万円**

## 5階の窓 17年ぶりの否決

任期満了に伴う副市長の人事案が提案されましたが、無記名投票の結果、反対多数で否決されました。この件は3期務めた副市長の功罪、無記名にしたことのは是非など、さまざまな観点から意見が噴出していますが、私は執行部提案が否決されたのが17年ぶりだという事に注目しました。

2005年以来という事は、佐竹市長敬久・現秋田県知事)の時代から、執行部が提案した予算案や条例案は、すべて採択され続けてきたこととなります。地方政治は二元代表制で、市長も議員もそれぞれ市民から選挙で選ばれた対等な立場です。市長が予算案や条例案などを作っても、議会の承認が得られなければ政策として実行できない仕組みです。しかし実際には予算の提案ができる市長の力が強く、「議会は承認機関ではないか」と厳しい指摘をする有識者もいるほどです。

## 会議録や中継・録画映像をご覧ください。

秋田市議会のホームページでは、本会議や各委員会の会議録、本会議の中継・録画映像をご覧ください。皆さまが一票を託した議員が、どんな問題意識を持って、どんな質問・議論をしているのか、是非ご覧ください。

